令和８年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）のポイント

❶ 令和８年度全国学力・学習状況調査の概要

令和８年８月
文部科学省・国立教育政策研究所

調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

調 査 概 要

調査実施日	令和８年４月20日(月)～５月29日(金)
調査対象	小学校６年生、中学校３年生
調査事項	①児童生徒：教科調査〔国語、算数･数学、**英語（中学校のみ）**〕 / 質問調査 **※令和５年度以来の実施** ②学　　校：質問調査
調査問題	・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信
今年度の調査の特徴	・中学校・英語（４技能「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」）の全面CBT（Computer Based Testing）化 ※「話すこと」調査のみ令和５年度もCBTで実施 ・小学校・児童質問でのランダム方式の導入

結果公表スケジュール

結果公表①
（正答率・IRT バンド分布などの全国平均）

結果公表②
（全国データに基づく分析結果）

結果公表③
（都道府県・指定都市別データに基づく分析結果）

全国（国公私）の平均正答数（率）・平均IRTスコア

小学校				中学校						
国語		算数		国語		数学		英語４技能		（参考）英語３技能
7.9/13 問 (61.1%)		9.1/16 問 (56.6%)		9.6/15 問 (64.2%)		9.2/16 問 (57.4%)		499		502
男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	―
57.7%	65.2%	58.3%	55.5%	60.7%	68.6%	57.0%	58.9%	490	510	

※中学校英語はCBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき、500を基準に算出したIRTスコアで結果を表示。IRTスコアは、「聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと」の英語４技能を統合したもので、「話すこと」の当日実施校500校分のデータに基づいて全国値を算出。各学校には、「聞くこと・読むこと・書くこと」の３技能を統合したIRTスコアを返却。

教科に関する調査結果のポイントは P.2・3・4

2 教科に関する調査結果（国語）

R8

- 文章を引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られた。
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題が見られた。

→自分の考えを伝える際に、考えと根拠を区別して表現することを意識させることが重要。

小学校国語 大問２四

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題

【花山さんの文章の続き】

4　すずしく過ごせる衣服の色は何色か

「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そでででもすずしく過ごすことができそうだ。

また、［　　］

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しゃする色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く。

条件①【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、抜き出して書いている。

条件②抜き出した本の題名と本文の一部の内容はかぎかっこ（「　」）でくくっている。

条件③抜き出した内容をもとに、すずしく過ごせる衣服の色について考えたことを書いている。

条件④ 140字以内にまとめて書いている。

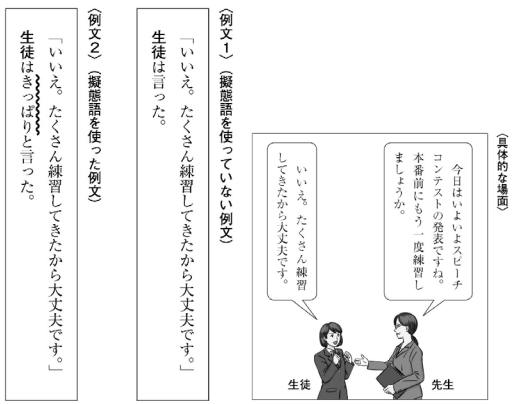
正答例（正答率 33.6%）	○「生活と太陽」という本には、「白は熱や光を反しゃする色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。」と書かれている。特に強い日差しが照りつけるえん天下では、黒い服より白い服を着る方が、すずしく過ごすことができそうだ。
誤答例	条件③は満たしているが、①②を満たしていないもの　…29.1% ●白は雪の色であり、冷たい印象がある。また、白色や青色の衣服は着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせることができる。

本文の一部を引用して書けたが、引用した部分と自分の考えとの関係を明確にし、区別して書くことができなかった児童がいた。

中学校国語 大問４四

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる問題

二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く。



条件①〈例文２〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書いている。

条件②「きっぱり」について考えたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書いている。

正答例（正答率 39.3%）	○「きっぱり」は、生徒が先生に向かって、自信を持って力強く言い切っている様子を表している。このように、擬態語は話している様子の包括的なイメージを表現することができる。
誤答例	条件①は満たしているが、②を満たしていないもの　…35.1% ●「きっぱり」という擬態語をつかうことによって生徒がたくさん練習をしてきて、発表に自信があるように感じさせる効果がある。

擬態語の効果について自分の考えを述べようとしているものの、本文やそこから得た理解に基づく記述が不十分な生徒がいた。

② 教科に関する調査結果（算数・数学）

R8

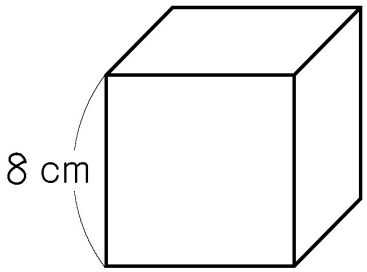
- 立方体の体積の求め方の理解や、基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えることに課題が見られた。
- ２直線が平行になる条件の理解に課題が見られた。

→図形の指導において具体的な活用の場面を通じて理解を深めることや、量と割合の違いについて図で表現するなどしながら理解を深めることが重要。

小学校算数 大問１(１)

立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる問題

１辺が８cmの立方体の体積を求める式を書く。

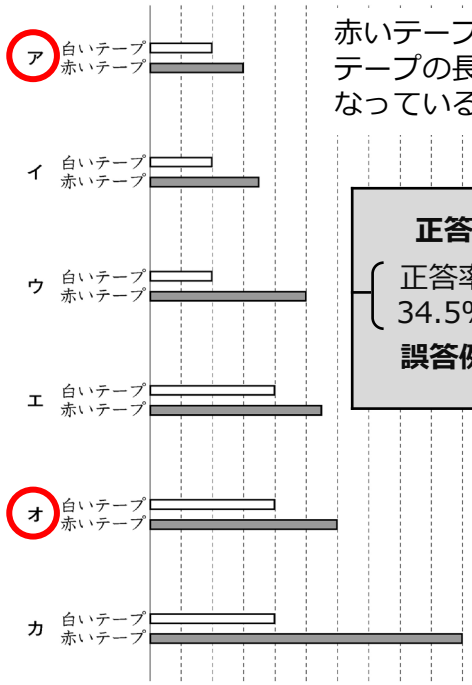


正答（正答率 72.9%）	8×8×8
誤答例	8×8　…10.2% 8×6、8×3　…5.5%

立方体の全ての辺が等しいことは理解しているが、誤って正方形の面積の公式を用いている児童や、立方体の特徴を体積の求め方に結び付けることができていない児童がいた。

小学校算数 大問２(４)

基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる問題



赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ。

正答（正答率 34.5%）	ア・オ
誤答例	イ・エ …35.7%

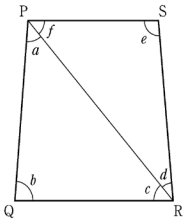
基準量の1.5倍に当たる量を、基準量より1.5目盛り分多い量であると誤って捉えていると考えられる児童がいた。

中学校数学 大問３

２直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる問題

四角形PQRSにおいて、PS//QRを示すための根拠となる二つの角を書く。

3　下の図は、四角形PQRSに対角線PRをひいたものです。



上の図において、∠aから∠fまでの６つの角のうち、ある２つの角の大きさが等しければ、PS // QRであるといえます。その２つの角を書きなさい。

正答（正答率 49.6%）	∠c と∠f を解答しているもの
誤答例	❶∠b と ∠e を解答しているもの　… 24.2% ❷∠a と ∠d、∠b と ∠e などの対応関係にはない二つの角を解答しているもの　… 20.3%

２直線が平行になるための条件を理解し、２直線が平行であるかどうかを判断する際に着目すべき二つの角を見いだすことに課題がある生徒がいた。

② 教科に関する調査結果（英語）

R8

- 社会的な話題に関して読んだことについて、自分の考えを書くことはできているが、その理由を書くことに課題が見られた。
- 日常的な話題について、自分がしたいことを話すことはできているが、その理由を話すことに課題が見られた。

→自分の考えを書いたり話したりする際に、読み手や聞き手に伝わるよう、理由を示すことを意識させることが重要。

中学校英語 問10 (2)

社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書く問題

インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く。

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.
Do you think my opinion is good?

Do you think my opinion is good?
あなたの考え

なぜそう考えるのか

正答の条件・正答例（正答率 28.4 %）	条件①：書き手の意見に対する自分の考えを書いている。 条件②：①の理由を書いている。 I agree with you. I often use the internet to study English.
誤答例	条件①は満たしているが、②を満たしていないもの　…43.6% I think your opinion is good. I think students will find is very good. (文構造の誤り)

自分の考えを書くことはできているが、その理由を書くことに課題がある生徒がいた。

中学校英語 問16

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話す問題

留学生と仲良くなるために、一緒にしたいことを１つ取り上げ、その理由を話す。

正答の条件・正答例（正答率 53.5 %）	条件①：留学生と一緒にしたいことを１つ取り上げて話している。 条件②：①の理由を話している。 I want to play tennis with Ming because it is fun for me to play tennis.
誤答例	条件①は満たしているが、②を満たしていないもの　…16.8% I want to play Karuta with Ming because it can learn Japanese culture and it is very enjoy. （主語、文構造の誤り）

留学生と一緒にしたいことを話すことはできているが、その理由を話すことに課題がある生徒がいた。

（参考）平成31年度の調査問題

次の内容を英語で話す。
〔正答率 45.9%〕

話してほしい内容
（①,②のどちらも話してください）

①あなたの将来の夢，または，
　将来やってみたいこと
②その実現のために頑張っていること，
　やるべきこと

日常的な話題について、自分の考えや気持ちなどを整理して、英語で話すことに、引き続き課題が見られた。

3 質問調査結果（児童生徒、学校）①

※グラフはその他、無回答を除いているため、合計しても100%に満たない場合がある。
※ □ 内の数値は相関係数

R8

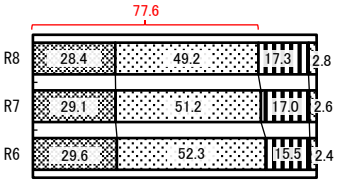
学習指導要領の趣旨を踏まえた取組

◆ 昨年度までと同様、約80%の児童生徒が**「主体的・対話的で深い学び」**に取り組んだと考えている。

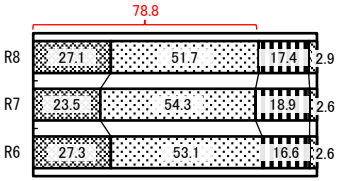
課題の解決に向けて自分から取り組んだ

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

小学校



中学校

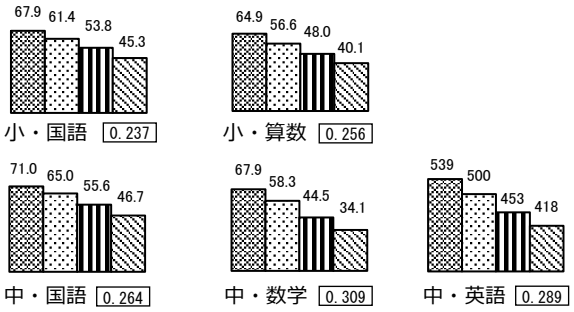


◆ **「主体的・対話的で深い学び」**に取り組んだと考える児童生徒ほど、**各教科の正答率・スコアが高い**傾向。

課題の解決に向けて自分から取り組んだ

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

選択肢ごとの平均正答率・スコア



※「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」以外の「主体的・対話的で深い学び」に関する回答でも同様の傾向。

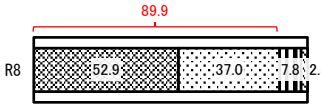
ICT機器の活用

◆ 約90%の児童生徒が、ICT機器を活用することで**「楽しみながら学習を進めることができる」「友達と協力しながら学習を進めることができる」**と考えている。

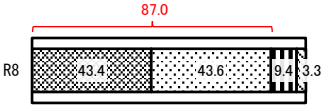
そう思う　どちらかといえば、そう思う
どちらかといえば、そう思わない　そう思わない

楽しみながら学習を進めることができる

小学校

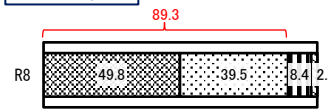


中学校

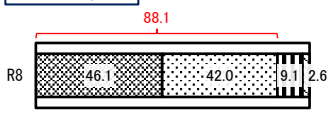


友達と協力しながら学習を進めることができる

小学校



中学校

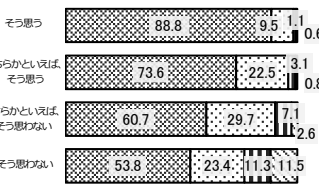


◆ ICT機器やインターネットについて、**ルールやマナーを守って活用できる**児童生徒ほど、**いじめはどんな理由があってもいけないこと**だという意識が高い。

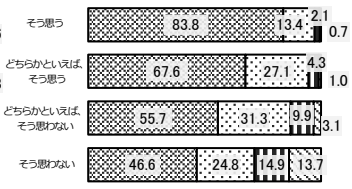
［ICTのルールやマナーを守って活用している］×［いじめはどんな理由があってもいけない］

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

小学校　0.231



中学校　0.223

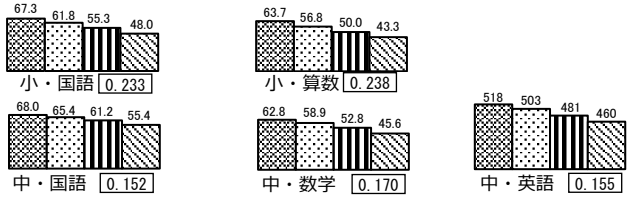


◆ ICT機器を**活用する自信がある**児童生徒ほど、**各教科の正答率・スコアが高い**傾向が見られる。

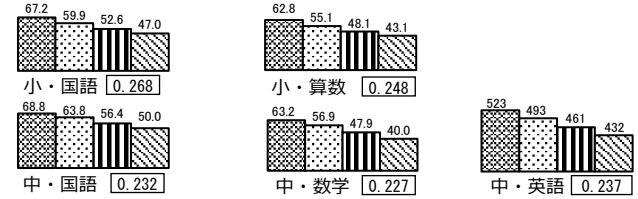
そう思う　どちらかといえば、そう思う
どちらかといえば、そう思わない　そう思わない

選択肢ごとの平均正答率・スコア

タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる



タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる



※「タブレットなどのICT機器で文章を作成することができる」、「インターネットを使って情報を収集することができる」に関する回答でも同様の傾向。

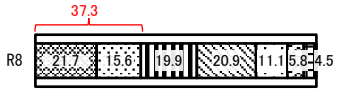
学校外での過ごし方

◆ SNSや動画視聴等の**利用時間が長い児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが低い**傾向が見られる。

平日、１日当たりのスマートフォン等でのSNSや動画視聴時間

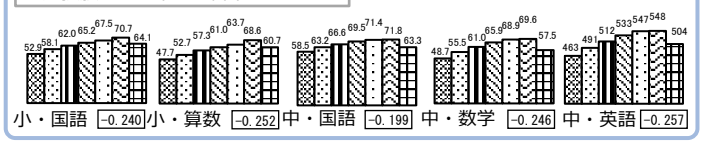
4時間以上　3時間以上、4時間より少ない　2時間以上、3時間より少ない
1時間以上、2時間より少ない　30分以上、1時間より少ない　30分より少ない
スマートフォン等を持っていない　※相関係数は「スマートフォン等を持っていない」回答を除外して算出

小学校



中学校

選択肢ごとの平均正答率・スコア



※中学校英語はCBTで実施し、英語４技能のIRTスコアにより結果を表示している。

3 質問調査結果（児童生徒、学校）②

※グラフはその他、無回答を除いているため、合計しても100%に満たない場合がある。
※ □内の数値は相関係数

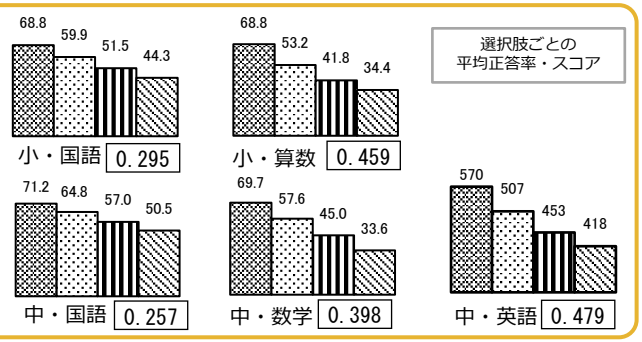
R8

各教科への興味・関心、理解度

◆ 「授業の内容がよく分かる」と回答した児童生徒ほど**各教科の正答率・スコアが高い**傾向。

授業の内容がよく分かる

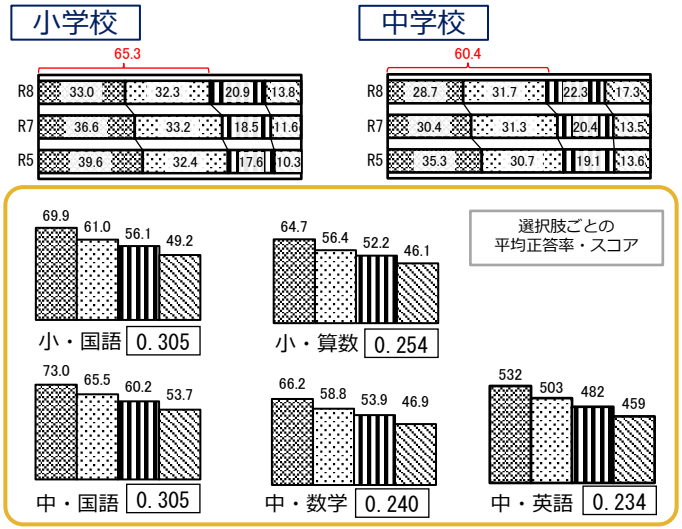
当てはまる　どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない



◆ 「**読書は好き**」と回答した児童生徒ほど**各教科の正答率・スコアが高い**傾向。

読書は好き

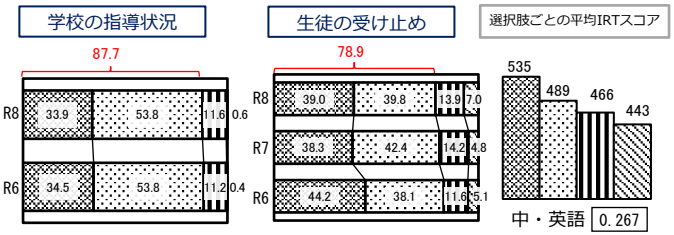
当てはまる　どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない



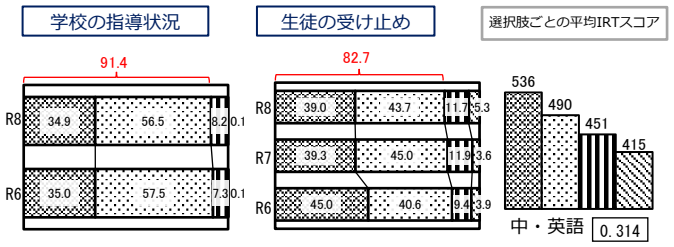
◆ 中学校英語の授業において、**言語活動に取り組んでいると受け止めている**生徒の方が**スコアが高い**傾向が見られる。

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていた



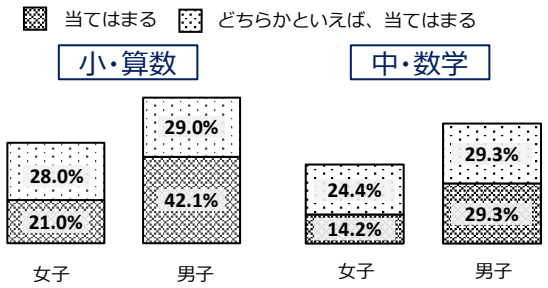
自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていた



◆ **算数・数学**の平均正答率に**大きな男女差は見られない**一方、**「得意」**と考える割合は、**男子の方が女子より高い。**

算数〔数学〕の勉強は得意だ

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる

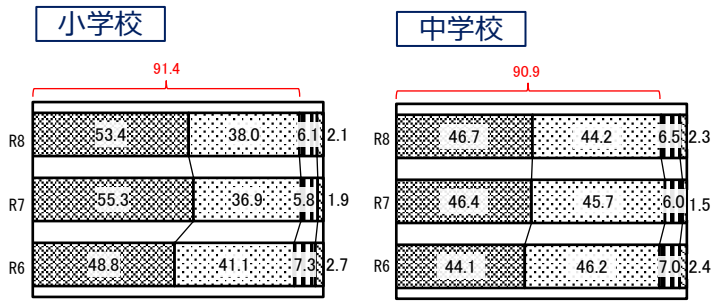


ウェルビーイング

◆ 「**先生は、あなたのよいところを認めてくれる**」と回答した児童生徒ほど、**学級で人と違う意見を言っても否定されない**と考えている。

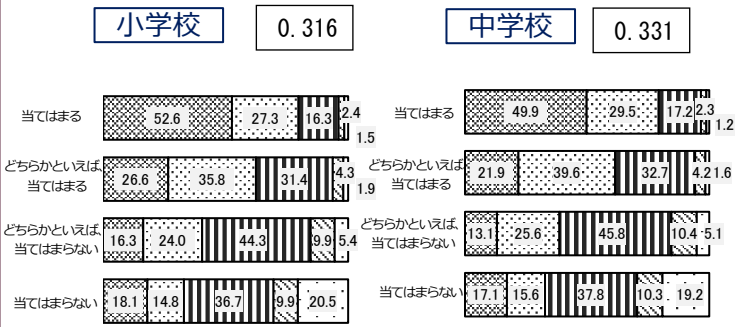
先生は、あなたのよいところを認めてくれる

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない



［先生は、あなたのよいところを認めてくれる］×［学級では人と違う意見を言っても否定されない］

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる
どちらともいえない
どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない



※中学校英語はCBTで実施し、英語４技能のIRTスコアにより結果を表示している。

4 文部科学省の主な取組一覧

R8

1 学習指導要領の着実な実施・改訂に向けた検討

○ **主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善**
- 学習指導要領の趣旨・内容の周知・徹底のため、全国の都道府県等教育委員会の指導主事等を対象とした協議会を実施。
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた全国の授業づくりの好事例を収集・分析し、サポートマガジン「みるみる」として公表。引き続き、事例普及に取り組む。

○ **指導改善に資する情報提供等（国立教育政策研究所）**
- 報告書（授業アイディア例を含む）を作成し、国立教育政策研究所のWebサイトに掲載（教育委員会や学校等で学習指導の改善・充実を図る際に活用）。
- IRTに基づく結果の活用方法について動画資料等で発信。児童生徒の理解の状況に応じた指導について、報告書で解説。
- 全国説明会（各教育委員会、教員養成大学等対象）を開催し、学習指導の改善・充実のポイントを解説（令和８年８月19日・20日オンライン開催）。
- オンラインなども活用し、学力調査官等による教育委員会や学校への指導・助言を実施。

○ **学習指導の充実**
- 今回明らかになった課題の解決に資するデジタル技術の活用方法について発信を実施。
- 英語において、練習量の増加や英語を学ぶ動機付けの強化等の観点から、AIを活用した英語教育の実証事業を実施。
- 児童等に、学校外での自身の興味・関心に沿って楽しく利用できる学習コンテンツ（「たのしくまなび隊」など）について周知。

○ **次期学習指導要領に向けた中央教育審議会における検討**
- 経済的に困難な背景のある子供たちを含め、子供たち一人一人が必要な資質・能力を育成できるよう、各教科等の改善や柔軟な教育課程編成の在り方について、次期学習指導要領に向けた検討を行う。

2 GIGAスクール構想の更なる取組の推進

○ **学校のICT環境整備の推進**
- 共同調達スキームの下での端末の着実な更新や、学校におけるネットワーク環境の改善等を推進、都道府県域内で共同調達・共同利用を前提とした次世代校務DX環境の整備を加速。

○ **学校のICT環境を活用した取組**
- 次期学習指導要領を見据えた情報活用能力の抜本的な向上のための教材開発。
- ICT活用のための研修コンテンツの提供やGIGA StuDX推進チームによる研修の実施。
- 学校DX戦略アドバイザーによる相談体制の構築、支援。
- 生成AIガイドラインの策定・改定、生成AIパイロット校による好事例の創出・普及。
- 紙・デジタルそれぞれの良さを取り入れた教科書の推進。

3 児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組の推進

- 道徳教育や特別活動、体験活動、生徒指導など学校教育活動全体を通じて児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組を推進。
- 読書の推進について、発達段階に応じた読書活動の先導的なモデル事業や、学校等における子供の読書活動を推進するための優れた取組の表彰を実施。

4 アンコンシャスバイアスの解消に向けた取組の推進

- 女子中高生と研究者等の交流機会の提供、シンポジウムや出前授業などの取組を、地域や企業等と連携して実施する大学等の支援を実施。

5 児童生徒の学習習慣・生活習慣の確立

○ **テレビゲームやスマートフォンの使用**
- 文部科学省情報モラルポータルサイトにおいて、児童生徒向けの情報モラルに関する動画教材を提供するとともに、教職員等を対象としたオンライン研修会を開催。
- こども家庭庁をはじめとした関係省庁と連携し、青少年インターネット環境整備基本計画に基づき、利用時間に関する「親子のルールづくり」の推奨など、青少年のインターネットの適切な利用に関する教育・啓発活動等を推進。

○ **学習支援**
- 教員OBや大学生などの地域住民の協力を得て行う、中学生・高校生等を対象とした放課後等の学習支援活動（地域未来塾）について補助を実施。

6 支援を必要とする児童生徒の支援策の充実

- CBTの特徴をいかし、不登校児童生徒、障害のある児童生徒、外国人児童生徒等がそれぞれの状況に応じて柔軟に調査に参加し、支援の充実につなげる形で活用。
- １人１台端末を活用した児童生徒の悩みや不安の早期発見・支援を推進するとともに、ICTを活用した学習も含め、不登校児童生徒が行った学習の成果を成績に反映することができることを法令上明確化し、制度の更なる活用促進のため、リーフレットを作成・周知。

7 教師を取り巻く環境整備

○ **指導体制の充実**
- 中学校35人学級化、小学校高学年及び中学年での教科担任制の拡充、中学校生徒指導担当教師の配置拡充、貧困等個々の学校が抱える課題への対応等、学校の指導・運営体制の充実。
- 多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するため、教師人材の質の向上と入職経路の拡幅の観点から、教師の養成・採用・研修における必要な改革について、中央教育審議会の審議の中で検討。

○ **子供と向き合う時間の確保**
- 教師が教師でなければできない仕事に集中することができるよう、学校における働き方改革の更なる加速化や、教員業務支援員などの支援スタッフの配置充実。
- コミュニティ・スクールを活用した働き方改革に係る取組の充実。

○ **児童生徒・教職員のウェルビーイングの向上に資する学校施設の整備**
- 学校施設整備への支援及び情報共有プラットフォームや事例集の周知を通じた好事例の横展開等による、児童生徒や教職員が居心地の良さ等を感じられる学校施設整備の推進。

○ **校務DXの推進**
- 教職員の事務負担の軽減や効率的で柔軟な働き方の実現、データ利活用・データ連携等を通じた教育活動の高度化に向けて、次世代校務DX環境の整備への支援を加速。

8 調査結果の活用、次回以降の調査の検討

○ **教育委員会等における分析活用の推進**
- 教育委員会等が課題意識に応じて調査結果を簡便に分析・活用可能な「分析ツール」の開発・提供。都道府県・指定都市ごとに多面的に分析し結果返却。

○ **調査の充実に向けた検討**
- 令和９年度から全教科においてCBT化を着実に実施。
- 技術進展等も踏まえつつ、きめ細かな分析・返却や結果返却の更なる早期化を検討。

○ **集計結果データの貸与**
- 大学等の研究者による多様な学術研究の分析等を促進するため、個票データ等の貸与を実施。